

菰野町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

基幹産業である農業と優良農地を守り、水稻、小麦、大豆等の2年3作体系を確立し、農地の高度利用を推進している。

今後、産地戦略枠を活用し農地の高度利用率を上げながら、自給率の向上を図り、農地の荒廃防止に繋げ、効率的かつ安定的な農業施策を行う。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

前年の需要動向や集荷業者の意向を勘案しつつ、米の生産数量目標に沿った米の生産を行う。

(2) 非主食用米（飼料用米）

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米の取組により、所得向上を目指す。また、県内の実需者と連携し需要が高まるよう推進する。

イ 米粉用米

主食用米の需要減が見込まれる中、米粉用米の生産拡大を図る。小麦代替用として県内の需要者と連携し需要が高まるよう推進する。

ウ 加工用米

地元農業協同組合等関係機関と連携し、需要量に応じた契約が図れるよう推進する。また、県内の実需者と連携し需要が高まるよう推進する。

エ 備蓄用米

主食用米と同様に取組める作物として取組むものとする。

(3) 麦、大豆

県内小麦の需要が高いことから、高品質で多収量の栽培生産に取り組む方針である。小麦では、団地型、土地利用型による集団栽培を実施することで効率的で安定した生産方法を確立する。また、小麦後には、大豆栽培による水田の高度利用を強化する。

特に大豆については産地戦略枠を活用し、無化学農薬・無化学肥料による高付加価値大豆の生産を推進する。

(4) 飼料作物

県内の実需者と連携し需要拡大を図り、生産面積の維持と所得向上を目指す。

(5) そば、なたね

作付の推進、生産性の向上を図る。特に、そばについては、産地戦略枠を活用し、担い手の所得向上を図るよう取組面積の拡大を推進する。

(6) 野菜

地域特産物としては、特色あるものとして野菜（マコモ・キャベツ）を作付することで地産地消を推進しながら、地域農業の活性化を図る。

(7) 花き・花木、果樹、地力増進作物、景観形成作物等

地元の需要に応じた販売や景観形成（コスモス）による地域活性化を目的とした生産に取り組めるよう、地元農業協同組合等関係機関と連携して、地産地消等の推進を図る。

(8) 不作付地の解消

不作付地については、ほ場条件が悪く、麦・大豆に適さず生産性が低いことが多く、そのため、飼料用米や景観作物等の栽培によりその解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 26 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	9 5 1 . 4	9 3 2	9 3 0
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
米粉用米	0	0	0
飼料用米	3 . 0	4 . 0	4 . 0
W C S 用稲	0	0	0
麦	4 7 7 . 7	4 8 0	4 9 0
大豆	4 5 0 . 1	4 6 0	4 7 0
飼料作物	2 . 7	3	3
そば	5 . 4	6	6
なたね	1 . 5	2	2
その他地域振興作物	6 1 . 5	6 2	6 2
野菜	1 3 . 4	1 3	1 3
花き・花木	3 . 9	4	4
果樹	0 . 7	1	1
地力増進	1 3 . 5	1 3	1 3
景観形成	6 . 7	7	7
その他	2 3 . 3	2 4	2 4

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 26 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	大豆	付加価値向上	ウ	実施面積	76.8ha	76.8ha	80.0ha

2	そば	振興品目の拡大	ア	実施面積	5.0ha	5.0ha	6.0ha
---	----	---------	---	------	-------	-------	-------

「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組